

1 目標（何を目指すのか。）

【通年】

大阪市と事業者が協働により事業を進めていくことによって、貴重な都市資源である野鳥園臨港緑地の湿地の生物多様性を維持し、市民にとって身近で貴重な環境学習の場を提供する。

2 使命（どのような役割を担うのか。）

【通年】

- ① 多様な生きものが生息し、特に、様々な種の渡り鳥が利用できる湿地を保全するために、モニタリングと順応的な管理を継続する。
- ② 大阪市内にあって大阪湾を望む景観（「住之江区の都市景観資源」として平成 24 年 12 月 21 日に登録）の中で、湿地を利用する渡り鳥や、それを支える干潟の様々な生きものの観察ができ、渡り鳥や干潟のことを学べる貴重な場を提供する。

3 平成 29 年度 運営の基本的な考え方（方針）

(1) 渡り鳥を支える豊かな干潟がある野鳥園

多様な生きものが生息し、渡り鳥が多く飛来する豊かな干潟を含む湿地を保全・再生するため、現状を生きものの視点から正確にモニタリング評価し、湿地再生プロジェクトチームでの議論も踏まえ、順応的な管理を実施する。

- ① 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善
- ② 市民参加による湿地保全作業の実施

(2) 渡り鳥と人をつなぐ野鳥園

環境学習会を企画実施し、渡り鳥の魅力やそれを支える貴重な自然環境（生態系）としての湿地の大切さを理解、共感してもらう。

- ① 魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成
- ② 広報活動の充実

※野鳥園内の干潟、塩性湿地、汽水池を含む環境を含めて湿地と表現する。

※本文中で野鳥園臨港緑地は野鳥園と省略して表現する。

4 重点的に取り組む課題 — (1) 湿地の保全・再生～渡り鳥を支える豊かな湿地がある野鳥園～		
計 画	将来像 (平成31年 3月末時点)	<p>1. シギ・チドリ類の種数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春(3～5月):シギ・チドリ類の渡来種数 22種 ・秋(8～10月):シギ・チドリ類の渡来種数 24種 <p>湿地の順応的管理により、シギ・チドリ類の中継地としての役割を将来にわたって果たしていく。</p> <p>※シギ・チドリ類の個体数は、東アジアの繁殖地・中継地・越冬地での減少が著しいため、個体数ではなく、種数の目標設定のみとした。</p> <p>2. シギ・チドリ類以外で湿地を利用する野鳥の種数:60種</p> <p>湿地で生活するシギ・チドリ類以外のカモ類、サギ類、その他の野鳥の生息環境を保全する。</p> <p>3. 有機物が適度に堆積しやすく、シギ・チドリ類が好む多様な餌生物が生息している底質。</p>
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	野鳥園では開園(1983年9月)以後、湿地の保全・再生と順応的管理継続して実施しており、生息環境が減少または悪化するシギ・チドリ類の大切な中継地となっているが、日本国内の他の湿地と同様に、野鳥園に渡来するシギ・チドリ類の個体数は年々減少している。
	要因分析	<p>1. 繁殖地・中継地・越冬地での個体数減少や温暖化による生息環境の変化</p> <p>2. 野鳥園の湿地の現状</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 表層の有機物堆積層の流出 2) カキ礁の拡大による干潟面積の減少(北池) 3) 一部の砂質化 4) 表層のバイオフィルムの減少 5) 地盤沈下による浅場面積の縮小と深場の拡大(地盤は年間に平均1センチ低下)など
	手法 (上記要因を解消す るために必要なこと)	<p>有機物が堆積しやすく多様な餌生物が多く生息し、多くの渡り鳥が飛来して、安心して採食でき休息できる環境づくりを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カキ礁の手入れ作業の実施と休み場づくり 北池に拡大するカキ礁の手入れ作業の実施。広がっているカキ礁を浅い部分に移動させ、積み重ねて鳥の休み場などとして活用する。【築港中学校・海遊館(市岡高校)との共同プロジェクトとして実施】 2. 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善 干潟内への落ち葉投入については、水質や底質の調査等を継続して実施するなど経過を観察しつつ、砂質化の抑制・底層生態系の創出を図る。落ち葉は野鳥園の緑地部分で採取したものを活用する。 3. 塩分の測定 塩分測定を継続して実施し、湿地環境のモニタリングを行う。

重点的に取り組む課題 ー (1) 湿地の保全・再生～渡り鳥を支える豊かな湿地がある野鳥園～ 点検表

中間報告（報告日：平成 29 年 12 月 20 日）		年度報告（報告日：平成 30 年 6 月 11 日）	
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. シギ・チドリ類の渡来種数 春（3～5 月）22 種類 秋（8～10 月）27 種類 2. カキ礁の手入れ作業 海遊館や築港中学校との共同プロジェクト（7 月 8 日には市岡高校も体験参加）として北池のカキ礁手入れ作業を行った（7 月 8 日）。その後、生徒たちと生物調査を行い（8 月 9 日）、カキ礁に多くの生物が定着し、多くの鳥類がカキ礁を休み場や餌場に利用していることを確認した。 3. 新たな休み場作り 南池に新たな休み場を作った（6 月 25 日）。台風などの被害を受けた木製の休み場の補修を行った（8 月、11 月）。 4. 落葉投入による環境改善 昨年度秋に北池に投入した落ち葉による環境改善（市立大学との共同プロジェクト）を図った箇所については、底生生物の増加が確認でき、サギ類やシギ類が餌場として多く利用していることも確認できた。 5. 塩分の測定 干潟現況調査や底生生物調査の一環として、昨年度より塩分測定を行っているが、今年度は干潟内の空間的、時間的な変化や大雨後の変化を調査した。昨年度から行っている干潟 7 地点の塩分測定に加え、 	取組事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. シギ・チドリ類の渡来種数 春（3～5 月）22 種類 【目標 22 種】 秋（8～10 月）27 種類 【目標 24 種】 2. カキ礁の手入れ作業 海遊館や築港中学校との共同プロジェクトとして北池のカキ礁手入れ作業を行い、その後、生徒たちと生物調査を行った。 3. 新たな休み場作り 南池の新たな休み場作りは 6 月・8 月・1 月の計 3 回に実施した。また、展望塔前に小鳥が止まりやすい木を立て、観察しやすいよう工夫した。 4. 落葉投入による環境改善 落葉投入による環境改善については、底生生物や利用鳥類数の種類などの変化について、継続して経過観察を行った。 5. 塩分の測定 干潟現況調査や底生生物調査の一環として、昨年度より塩分測定を行っている。今春に高性能で利便性の高い塩分測定器を導入（港湾局にて購入）したことから、今後は精度の高い湿地環境のモニタリングが可能となる。

	市立大学の協力のもと、約2週間(8月16日～30日)の定点連続測定を行うとともに、海遊館からは、台風に伴う大雨後の塩分データ等の提供を受けた。							
数値目標	計画			実績		振返り		
	項目	最終目標	H29年度目標	中間実績	H29年度実績	最終目標比較増△減	年度目標比較増△減	H28年度実績
鳥類調査	鳥類調査実施回数	26回	26回	19回	23回	△3回	△3回	23回
	大阪府一斉ガンカモ調査への情報提供	実施	実施	1月実施 予定	実施			実施
	環境省(モニタリングサイト1000)への情報提供	実施	実施	実施	実施			実施
湿地再生PT	湿地再生PTの開催回数(資料整理や調査含む)	2回	2回	3月実施 予定	0回	△2回	△2回	1回
底生生物調査	底生生物調査回数	2回	2回	1回	4回	+2回	+2回	2回
	塩分の測定回数	3回	3回	2回	3回			3回
漂着ゴミ回収と除去作業	実施回数	3回	3回	1回	2回	△1回	△1回	2回
	ボランティア参加人数	400人	400人	200人	210人	△190人	△190人	450人
湿地の手入れ	ヨシ刈り、休み場づくり等の実施回数	5回	5回	4回	8回	+3回	+3回	9回
	カキ礁の手入れ作業の実施	実施	実施	実施	実施 (2回)			—

中間評価（評価日：平成 29 年 12 月 20 日）		年度評価（評価日：平成 30 年 6 月 11 日）	
総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	総合評価	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
自己評価 （課題と改善策）	<p>1. カキ礁の手入れ作業の実施と休み場づくり 北池のカキ礁移動は、一定範囲の作業を終え、野鳥の利用や餌場の多様性などが確認できた。来年度も作業を引き続き行う必要があり、その際には、今年度と同様のメンバーに加え、市民ボランティアも募集し行う予定である。</p> <p>2. 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善 落ち葉投入した箇所は、底生生物の増加や、野鳥の餌場としての利用等につながっている。今後も、底生生物や利用鳥類の調査を行い、その効果を経過観察していく。</p> <p>3. 塩分の測定 干潟内の塩分について、時間的、空間的変化を概ね把握することができた。測定頻度を増やすこと等も検討し、他機関のデータ提供等も受けながら、生物調査等に必要なデータの蓄積、モニタリングを行っていききたい。</p> <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11 月には 200 人規模の漂着ゴミ回収を予定していたが、雨天のため中止となった。今後、渡り鳥の飛来時期前に漂着ゴミ回収を行う予定である。 ・12 月 7 日～8 日に琵琶湖にて開催された、東アジアオーストラリア地域フライウェイパートナーシップ 	自己評価 （課題と改善策）	<p>1. カキ礁の手入れ作業の実施と休み場づくり 北池のカキ礁移動により積み上げたカキ礁に多くの生物が定着し、また、多くの鳥類がカキ礁を休み場や餌場に利用していることが確認されており、一定の効果が見られた。また、移動することにより、北池干潟のシギ・チドリ類の餌場も拡大した。 平成 30 年度も学校や市民と協働して、継続した取り組みが必要である。また、新たにカキ礁に集まる魚類調査も実施したい。</p> <p>2. 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善 落ち葉投入した箇所に対し、底生生物や利用鳥類の状況など、効果の経過観察を行っているが、底生生物の増加が確認でき、サギ類やシギ類が餌場として多く利用していることも確認できた。 また、29 年度は経過観察の段階であったため湿地 PT を開催しなかったが、30 年度には湿地 PT を開催し効果の結果をまとめ、今後の湿地環境改善に繋げる。</p> <p>3. 塩分の測定 干潟内の塩分については、海遊館が行った大雨後の調査では半海水程度の塩分になっており、今後も大雨後の塩分の変化に注視した調査も必要である。</p>

	<p>(EAAFP) 西ブロック研修会に建設局職員が参加し、他自治体での取組や干潟の管理方法について、情報交換を行った。今後の運営に生かしたい。</p>		<p>新たに導入した塩分測定器を使用することにより精度を上げ、測定頻度も検討し、引き続き生物調査等に必要なデータの蓄積、モニタリングを行っていききたい。</p> <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 東アジアオーストラリア地域フライウェイパートナーシップ (EAAFP) などの自治体職員による会議については、今後も継続して参画していききたい。
<p>委員評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 野鳥園の干潟は河川水の影響など様々な要素が絡み合い多様な環境を生み出しているという観点を持ちつつ、今後も環境のモニタリングを行ってほしい。また、湿地部の池の塩分測定にあたっては、より測定精度の高い機器を使用することが望ましい。 湿地部への落ち葉投入に関しては、底生生物や利用鳥類の増加など一定成果も出ており、評価できる。今後はフルボ酸（腐食物質）などにも注目してみてもどうか。 東アジアオーストラリア地域フライウェイパートナーシップの研修会には、大阪市として継続して参加するのが望ましい。 	<p>委員評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 落葉を湿地部に投入する取り組みは、底生生物の生息など一定成果も出ており評価できる。腐食していない落葉を投入すると底生生物に悪影響があることが判明したとのことであり、十分に腐食・分解した落葉を使用し、継続して取り組みを進めていくとよい。 塩分測定について、引き続き、測定時期や測定方法などを工夫し進めてほしい。特に大雨の後の濃度がどの程度まで低くなるのかを見しておく必要がある。

4 重点的に取り組む課題 – (2) 魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計画	将来像 (平成31年 3月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な体験型環境学習ができる場として、季節に応じて魅力あるプログラムを企画し、実施する。 2. 専門的知識を有する多数の人材が、各事業を包括して計画、管理、指示することによって、事業全体を通して野鳥園の機能と役割が発揮でき、湿地の保全ができるようにする。
	現状 (課題設定の根拠となる現状)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 昨年度実施した観察会のアンケートでは、平均して約2割～3割の参加者が「やや不満」「普通」と回答している。 2. 学校との連携については現在港区にある築港中学校と連携している。
	要因分析	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境学習会の満足度が当日の自然環境(野鳥の飛来状況等)に左右されやすい。 2. トータルコーディネイターや野鳥ガイド等の専門的知識を有する人材が不足しており、一人一人の負担が大きい。 3. 地元住之江区内の学校との連携ができていない。
	手法 (上記要因を解消するために必要なこと)	<p>環境学習について、参加者がより観察会を楽しめるように環境学習会の内容を充実し、定員充足率の向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境学習の手法の改善についての検討 <ul style="list-style-type: none"> ・野鳥観察会時にも湿地部を活用するなど内容を充実し、定員充足率を向上させる。 ・学校・海遊館と共同で実施するカキ礁移動作業は作業完了後の翌月に生き物調査も行い環境保全体験と生き物の学習を総合的に実施する。 ・アカテガニ観察会については、参加者がより身近に観察できるように手法を検討する。 2. 野鳥ガイドの充実 <p>野鳥ガイドの増員を図る(現在21名⇒目標26名)とともに、全ガイドを対象にフォローアップ研修を適宜実施し、種々のガイドや環境学習会に対応できる人材を育成する。</p> 3. 住之江区内の学校への環境学習の利用促進 <p>地元住之江区内の学校や市民に環境学習の場として野鳥園を利用してもらうように働きかけを行っていく。</p> 4. トータルコーディネイターの育成 <ul style="list-style-type: none"> ・リピーター→サポーター→野鳥・湿地ガイド→トータルコーディネイターと段階的に人材育成できるよう、まずはリピーター確保の取り組みから実施していく。 ・また、年間の事業全体を通して適正な湿地保全と魅力ある環境学習会の企画立案及び広報の充実に取り組み、他湿地管理団体と継続して交流することによって視野を広げスキルアップを図り他都市での取り組み事例などから野鳥園臨港緑地独自の取り組みについても検討を進めていく。

重点的に取り組む課題 －（２）魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～

中間報告（報告日：平成 29 年 12 月 20 日）		年度報告（報告日：平成 30 年 6 月 11 日）	
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境学習会の定員充足率の向上 環境学習会の定員充足率は 103%（昨年度より 47% 増）、初参加者数は 63 人（昨年度よりも 18 人増）となった。 2. アカテガニ観察会（8 月 19 日）の改善 事前に展望塔前の石垣を観察しやすいように整備し、参加者に参加賞としてアカテガニシールを配布した。また、一部赤色 LED ライトを使用して観察したが、放仔に関しては光よりも人の気配が影響しているように思われた。また、赤色ライトを使用すると、アカテガニか黒ベンケイカニかの見分けが非常に難しくなってしまった。 3. 環境学習と環境保全体験の総合的な実施 カキ礁移動作業は、翌月の生物調査とセットで行うことにより、作業効果を実感してもらうとともに、積み上げたカキ礁が生物の良い生息場になることや、そこに生息する生物を知ってもらう等、環境学習と環境保全体験の総合的プログラムとして実施できた。 4. 野鳥ガイドの充実 今年度、野鳥ガイド養成講座に女性 3 名、男性 1 名の計 4 名が参加し、12 月以降は新ガイドとして来園者に対してガイドを行い、スキルアップに努めている。 5. リピーターの確保 観察会の定期的な個別案内（希望者）などにより、リピーターの確保を行った。 	取組事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境学習会の改善と定員充足率の向上 アカテガニ観察会において、観察場の整備や参加者への特典の充実を図った。また、各種環境学習会の定員充足率の増加に向け、都度、観察会の内容について改善に努めた。 2. 環境学習と環境保全体験の総合的な実施 野鳥園の独自の取り組みとして、カキ礁移動作業と生物調査の総合的プログラムを実施した。 3. 野鳥ガイドの充実 野鳥ガイドについては、新たな 4 名に対し、ガイドの実践などスキルアップを図った。 4. リピーターの確保 引き続き、観察会の個別案内（希望者）や野鳥園だよりの配布など、リピーターの確保に取り組んだ。 5. トータルコーディネイターのスキルアップ トータルコーディネイターについては年 3 回（4 月・9 月・2 月に実施）大分県中津干潟で活動する団体と交流し、参考となる環境学習の手法等について意見交換を行なうなどスキルアップに努めた。

	<p>6. トータルコーディネイターのスキルアップ</p> <p>トータルコーディネイターのスキルアップを図るため、4月、9月に大分県中津干潟で活動する団体と交流し、意見交換を行った。</p> <p>※台風の影響によって、9月に予定していた「干潟の渡り鳥観察会」は中止となった。</p>							
具体的取組	計画			実績		振返り		
	点検項目	最終目標	H29年度目標	中間実績	H29年度実績	最終目標比較増△減	年度目標比較増△減	H28年度実績
野鳥ガイド	実施回数	40回	36回	25回	36回	△4回		36回
野鳥の会探鳥会	実施回数	12回	12回	9回	12回			12回
野鳥ガイド	登録人数	40人	26人	25人	25人	△15人	△1人	21人
	一人で解説できる野鳥ガイドの人数	25人	20人	16人	17人	△8人	△3人	15人
環境学習会	単発観察会実施回数	6回	10回	8回	9回	+3回	△1回	10回
	環境学習会初参加者数	30人	30人	63人	93人	+60人	+60人	45人
	各環境学習会の定員充足率	平均100%	平均80%	平均103%	平均98%	△2%	+18%	平均56%
学校を対象とした環境学習会	学校を対象とした環境学習会の実施回数	2回	1回	3回	3回	+1回	+2回	0回
地元との連携	住之江区内の学校が環境学習会に参加	実施	実施	次年度予定	未実施			参加呼びかけ
人材育成	トータルコーディネイターの人材育成	5人	4人	4人	4人	△1人		4人

具体的取組	計画			実績		振返り		
	点検項目	最終目標	H29 年度目標	中間実績	H29 年度実績	最終目標比較増△減	年度目標比較増△減	H28 年度実績
他干潟保全団体との交流	環境学習や干潟・湿地の管理手法に関する情報交換回数	3 回	2 回	2 回	3 回			2 回
市民が参加できる環境保全体験	市民が参加できる環境保全体験を組み込んだプログラムの実施回数	2 回	2 回	次年度実施予定	次年度実施予定	△2 回	△2 回	0 回
中間評価（評価日：平成 29 年 12 月 20 日）			年度評価（評価日：平成 30 年 6 月 11 日）					
総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込		総合評価	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成				
自己評価 （課題と改善策）	1. 環境学習の手法の改善についての検討 <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習会の定員充足率は 100%を超え、年度目標を達成できる見込みである。 ・アカテガニ観察会では、観察場所の整備や参加賞のシール作成等の改善を行った。観察できるアカテガニが少なかったため、観察会により有効な時間帯などについて来年度に向けて検討する。 ・観察会での湿地部の活用について、引き続き検討し、観察会の更なる充実を目指していきたい。 ・市民参加できる環境保全体験事業については今年度の実施は難しいが、来年度、北池のカキ礁移動作業時に市民ボランティアを募集し実施する予定である。作業後には、野鳥観察会も行うなど体験型の環境学習会としたい。 		自己評価 （課題と改善策）	1. 環境学習の手法の改善についての検討 <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習会の定員充足率は最終的に 98%となり、昨年度より大幅に増加し、また、初めて野鳥園の観察会に参加した市民も増加（初参加者 93 人〔昨年度より +48 人〕）した。引き続き、観察会などの内容充実を図る。 ・アカテガニ観察会では、日没までの待ち時間を要したことや、連日の日照りや観察場所の除草のタイミングが観察会間際となり、観察できたアカテガニの匹数が例年より少なかった。今後、観察に有効な開催時期・時間の精査を行うほか、各種観察会についても、湿地部の活用などについても引き続き検討し、更なる内容充実をめざす。 ・学生・生徒によるカキ礁移動作業と生物調査の総合的プログラムは大変に有意義であったため、30 年度も引き続き実施するとともに、これまでの参 				

	<p>2. 野鳥ガイドの充実</p> <p>野鳥ガイドは今年度 4 名増員した。年度目標に 1 名足りない状況であるが、新ガイドのフォローと共に、来年度も引き続き増員に取り組む。</p> <p>3. 住之江区内の学校への環境学習の利用促進</p> <p>住之江区の学校との環境学習会は、今年度の実施は難しいが、来年度、築港中学校、海遊館との共同プロジェクトの成果発表会を考慮しており、その際に住之江区の学校にも参加案内し、野鳥園での活動の参加に繋げたい。</p>		<p>加の校園以外への拡大や市民ボランティアの募集についても検討する。</p> <p>※カキ礁移動作業に参加した築港中学校や市岡高校による活動内容については、昨年 11 月、マリンラーニング「海の宝コンテスト」(事務局：北海道大学)において優秀賞を受賞</p> <p>2. 野鳥ガイドの充実</p> <p>野鳥ガイドは今年度 4 名増員したが、年度目標に対して 1 名不足した。ガイド業務の円滑な運営を図るため、引き続き、増員に取り組みたい。</p> <p>3. 住之江区内の学校への環境学習の利用促進</p> <p>住之江区の学校との環境学習会は実施できなかったが、H30 年度はカキ礁移動作業等、環境学習への参画に向け働きかけを行いたい。</p> <p>4. トータルコーディネイターの育成</p> <p>トータルコーディネイターにおいても、他水域の干潟や塩性湿地で活動している団体との情報共有や交流を今後も継続して行い、人材育成を図っていきたい。</p>
<p>委員評価</p>	<p>1. 中学校とのカキ礁に関する環境学習の取り組みは、移動作業だけではなく、生物調査も行われており評価できる。今後もこのような取り組みを進めていくとよい。</p> <p>2. 他水域の干潟や塩性湿地で活動している団体との情報共有や交流は重要であり、トータルコーディネイター育成の観点からもこれを継続するのが望ましい。</p>	<p>委員評価</p>	<p>1. 多様な環境学習会を実施しており評価できる。環境に配慮し生態系を守りながら、人手もあまりかからない手法で効果的なPRを行うのが望ましい。アカテガニを利用して野鳥園を多くの人に知ってもらえるような仕掛けづくりが望ましい。</p> <p>2. 高校(府下)の生物系教師のネットワークがあるので、その繋がりを利用し広く呼びかけていくことが望ましい。</p>

4 重点的に取り組む課題 – (3) 広報活動の充実～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計 画	将来像 (平成 31 年 3 月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> 野鳥園で開催している環境学習会について市民に広く知ってもらおう。 野鳥園を利用する渡り鳥の生態や魅力を市民に認識してもらうことで、自然環境への理解を深めてもらう。
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	<ol style="list-style-type: none"> 野鳥園で開催している環境学習会について市民の認知度が低い。 府下では年間で最も多くの野鳥 (150 種) が見られること、特に湿地では年間 90 種近くの野鳥が利用していることに対する認知度が低い。 昨年度の環境学習会の定員充足率が低い。
	要因分析	市民への広報不足。
	手法 (上記要因を解消 するために必要なこ と)	<p>効果的な媒体を活用し、幅広い層の市民に対し野鳥園で実施している環境学習会などの情報を発信する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 効果的な情報発信の実施 <ul style="list-style-type: none"> 区広報紙や新聞への掲載について、効果的な広報媒体として引き続き活用していく。また、地元住之江区民の方に野鳥園の魅力を知ってもらえるよう、区広報紙への特集記事 (施設案内・事業案内) の掲載にむけて住之江区役所と連携・調整を図る。 ホームページや、ブログやスタッフ個人による facebook 等の SNS を引き続き活用し情報発信を行う。 新たに展望塔に設置する下敷きや野鳥園パンフレットの作成を行うなど、掲示物等の充実を図る。 年間 4 回、季節に応じて野鳥ガイド日、観察会の案内を掲載する「野鳥園だより」を新たに発行し、野鳥ガイドから来園者に手渡しで配布するほか、試行的に環境学習会参加者の希望者に、野鳥園だよりの送付やイベントの案内を適宜実施する。 大阪港開港 150 年記念事業への参画 <p>野鳥園開園以来、大阪港の環境保全に関わってきたことから、本年実施される大阪港開港 150 年記念事業に参画していく。</p>

重点的に取り組む課題 - (3) 広報活動の充実～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～ 点検表

中間報告（報告日：平成 29 年 12 月 20 日）		年度報告（報告日：平成 30 年 6 月 11 日）	
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報媒体の活用 プレスや区広報紙、ホームページ、ブログなどの広報媒体の積極的な活用や観察会の個別案内（希望者）などにより、観察会の参加者数増、リピーターの確保に向けて取り組んだ。 2. パンフレットの制作 野鳥園の最新の情報を紹介する新たな広報用パンフレットの制作に取り組んだ。今年度中に完成予定である。 3. 野鳥園だよりの作成 3か月に1回野鳥園だよりを作成・発行した。野鳥ガイドにより来園者に手渡ししている。 4. 大阪港開港 150 年記念事業への参加 大阪港開港 150 年記念事業の一環として市庁舎で開催された歴史パネル展示会に出展したほか、大阪港クルーズ、大阪港子ども見学会においてもリーフレットの配布や船内放送を行い、広報活動を行った。 	取組事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報媒体の活用 年間を通じ、新聞や区広報誌など各種広報媒体を積極的に活用して、観察会の参加者数の増加、リピーターの確保に向けて取り組んだ。 特に、地元の住之江区役所に働きかけ、区広報紙「さざんか」1月号に特集記事（1ページ）の掲載を行った。 2. 新パンフレット・野鳥園だよりの制作 新たな広報用パンフレットの製作にあたり、施設・野鳥案内の他、野鳥園ならではの貴重な生物や塩性湿地の機能などの紹介なども取り入れ作成した。また、野鳥園だよりの（春・夏・秋・冬号）を作成・発行し、野鳥園だよりは、野鳥ガイドにより来園者に手渡すなどし、リピーターの確保に繋げている。 3. 平成 25 年末の指定管理者制度の終了以降、展望塔の来園者数の把握ができていなかったが、常駐者がなくても来園者を把握できるよう、人感式のカウンターを導入した。（平成 30 年 4 月、港湾局により機器設置・運用開始） 4. 大阪港開港 150 年記念事業への参加 市庁舎で開催された歴史パネル展示会に出展「テーマ：渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～大阪港の発展と環境保全～」したほか、大阪港クルーズ、大阪港子ども見学会においてもリーフレットの配布や船内放送を行い、野鳥園の PR 活動を行った。大阪港歴史パネル展示会に出展した野鳥園コーナーのパネルは現在、展望塔に掲示している。

具体的取組	計画			実績		振返り		
	点検項目	最終目標	平成 29 年 度目標	中間実績	平成 29 年度実績	最終目標比較 増△減	年度目標比 較増△減	平成 28 年度実績
ホームページの充実	野鳥ガイド案内	実施	実施	実施	実施			実施
	各イベント案内	実施	実施	実施	実施			実施
さまざまな広報媒体 の活用	大阪市 HP への掲載回数	2 回	3 回	3 回	4 回	+2 回	+1 回	3 回
	区役所へのイベントチラシ配備 (回数)	実施	2 回	2 回	3 回		+1 回	実施
	区広報紙への記事掲載回数 (特集記事含む)	1 回	2 回	3 回	5 回	+4 回	+3 回	1 回
	新聞への記事掲載回数	2 回	2 回	4 回	5 回	+3 回	+3 回	1 回
	ブログによる情報発信	実施	実施	実施	実施			実施
展望塔内の展示スペース の活用	展示スペースの更新回数	4 回	3 回	2 回	3 回	△1 回		3 回
	野鳥写真の掲示回数	3 回	3 回	2 回	3 回			3 回
	野鳥ガイド時のアンケート	実施	実施	実施	実施			実施
	下敷きやパンフレットの作成	実施	実施	作成中	実施 (下敷きは企画中)			—
リピーター確保の取 り組み	野鳥園だよりの配布回数	4 回	4 回	3 回	4 回			0 回
	希望者へ環境学習会の案内	実施	実施	実施	実施			—
	野鳥園サポーター制度 (仮称) 導入に向けた検討	実施	実施	検討	検討			検討
大阪港開港 150 年記 念事業	大阪港開港 150 周年事業へのイベント参画	実施	実施	実施	実施			検討
中間評価 (評価日 : 平成 29 年 12 月 20 日)			年度評価 (評価日 : 平成 30 年 6 月 11 日)					
総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込		総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成				

<p>自己評価 (課題と改善策)</p>	<p>1. 効果的な情報発信の実施</p> <p>1. 環境学習会に関しては、定員充足率が 100%を超え、効果的な広報が行えた。引き続き、野鳥園の魅力の PR を、継続して行っていく必要がある。来年 1 月の地元住之江区広報紙に野鳥園特集記事が掲載される予定である。</p> <p>2. 観察会の定期的な個別案内（希望者）や野鳥園だよりの発行をはじめとして、引き続きリピーターの増員に向けて取り組んでいく。</p>	<p>自己評価 (課題と改善策)</p>	<p>1. 効果的な情報発信の実施</p> <p>・環境学習会に関しては、定員充足率が年間平均で 98%となるなど、効果的な広報が行えた。引き続き、野鳥園の魅力発信を、継続して行っていくきたい。</p> <p>※H30. 5. 13 開催 春の野鳥かんさつ会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員 50 名に対し約 70 名の申し込み) ・アンケート結果 <p>【どのようにして知ったか】</p> <p>新聞 31%、区広報誌 19%、口コミ 26%、インターネット 12% 他</p> <p>・新パンフレットには、野鳥園の魅力発信ができるようアカテガニやハクセンシオマネキなど野鳥園ならではの貴重な生物や塩性湿地の機能などを取り入れて制作した。展望塔に設置する「野鳥説明用下敷き」についても、わかりやすいものなるよう現在、企画中であり 30 年度に作成・設置を行いたい。</p> <p>2. 大阪港開港 150 年記念事業への参画</p> <p>平成 29 年度は大阪港開港 150 年記念事業に連携して取り組みを行ったが、これまで大阪港の環境保全にも関わってきた野鳥園の存在意義を PR するよい機会となった。</p> <p>H30 年度は、現在の業務委託契約（長期継続）の最終年であるため、事業総括や、必要に応じて</p>
--------------------------	---	--------------------------	--

			その総括した内容（成果物）を対外的に発信する手法について検討を行う必要がある。
委員評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新パンフレットの制作にあたり、野鳥園の魅力発信ができるようアカテガニやハクセンシオマネキなど野鳥園ならではの貴重な生物や塩性湿地の機能などの題材を取り上げるなど、工夫してはどうか。 2. 大阪港開港150年記念事業の一環として行った歴史パネル展示等は、大阪港の発展と環境保全をテーマにするなど工夫されており評価できる。 3. 中国の清華大学や上海動物園など海外からの視察、また、国交省による干潟の定量的評価調査の機会は国際的・国内的なよいPRの場となるので高く評価できる。 4. 来園者数の把握は重要であり、防犯も兼ねたカメラの設置・活用を検討してはどうか。 5. 委託事業の最終年度である来年度には、これまでの事業総括を行い、それらを対外的に発信できるようぜひ検討してほしい。 	委員評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新たに設置した人感式カウンターでは、同じ日に複数回出入りした人は重複してカウントされていることから、実際に近い数字（推計）を出したほうがよい。来園者数の計測は野鳥園の存在価値の評価にもつながる。 2. 港湾局・建設局・NPOの3者で次期の事業運営の方向性を定めていくにあたり、様々なユーザーや学校も交えたテーブルでヒアリングしつつ、事業の総括を行うのが望ましい。

